

令和2年（2020年）11月26日

令和2年（2020年）11月

定例教育委員会会議 自由討議資料



(開催概要)

- | | |
|--------|---|
| 1 日時 | 令和2年（2020年）10月22日（木）午後4時～5時30分 |
| 2 出席者 | 教育長、教育委員（5名） |
| | 市立高等学校・中学校生徒 19名 |
| | 〃 保護者 14名 |
| | 〃 教職員 5名 |
| | 計 38名 |
| | ※参加者は公募による |
| 3 開催方法 | オンライン会議 |
| 4 次第 | (1) 開会
(2) 教育長挨拶
(3) グループに分かれて意見交換
【議題】1.現在の校則・生徒指導の問題点について
2.見直しの必要性について
3.見直しの方法について
(4) 閉会 |

苫野教育委員グループ 意見概要

★グループ構成★

生徒3名（高校生1名、中学生2名）、保護者2名、教職員1名

1. 校則や生徒指導の問題点について

() は発言者

特に服装についての決まりが細かいこと

- (生徒) 前髪は眉にかかってはいけない。女子は髪が肩にかかったら結ぶ、男子はツーブロック禁止。
- (生徒) マフラー、ネックウォーマー禁止。
- (生徒) 靴下の柄はワンポイントまでと決められている。
- (保護者) 靴下が学校の校章のマーク入りと決められている。
- (保護者・生徒) 靴は白のスニーカー、靴下は白、靴下の長さも決められている。
- (保護者) 女子のスカートは、ひざまですいてスカートの裾が床につかなければならない。
 - ・(保護者) 男子はガクランやズボンの丈が長くても短くても言われない。
 - ・(生徒) 雑巾がけの際、スカートが床につかないように短くしたら長くするように指導された。
- (生徒) うちわの使用禁止。
- (生徒) 水泳をしていて地毛が茶色であるが、その理由を尋ねられる。

指導の際に納得できる説明等がないこと

- (教職員) 身なりに関する校則は、社会に出るため身なりを正す準備期間であるからと説明するが、実社会には身なりを重視しない企業もあり、校則の難しさを感じる。
- (生徒) 納得のいく説明はなく、校則で禁止されているからと指導される。
- (保護者) 注意をする先生がツーブロックだったり、廊下を走ったりしていると聞く。

「高校生、中学生らしさ」という言葉が不明瞭であること

- (保護者) 高校生、中学生らしい服装、髪型にしなさいという指導はあまりにも抽象的であり、具体的に示すことで生徒の納得が得られると思う。

その他

- (保護者) 校則にないことを注意することができなくなってしまうという観点もあるので、最低限の必要なことは校則で決めなければならないと思う。
- (教職員) 服装等が決められたのには、過去に経緯があり、そのことを考える必要があると思うが、理由がわからない決まりはみんなで考えていかなければならない。
- (保護者) 学校によっては、ネックウォーマー、女子のタイツが許可されるなど、改善されたところもある。

2. 校則や生徒指導の見直しは必要か

→ 必要（全員一致）

3. 校則や生徒指導の見直しの方法について

みんなが理解できるルールをつくる

（生徒）ネックウォーマーとマフラーを許可してほしい。ここではつけて良い、つけてはいけないなど、みんなが理解しやすいルールがあればいいと思う。

高校生、中学生らしい●●を具体的に決める

（生徒）例えば、これが「高校生らしい髪型」だと具体的に決めた方が良い。また、それを守るために納得できる理由も説明すべき。

人権が侵される可能性がある校則については積極的に考える

（教職員）人権や人として大切な部分が侵害される校則というのは積極的に絶対考えないといけないと思う。

先生だけで決めるのではなく、生徒、保護者、更に地域も交えて決定する

（生徒）現在生徒の意見の場はない。自分の意見も言いたい。

（保護者）先生が決めた決まりを受け入れるのではなく、校則を決める、また見直す最初の取り掛かりの段階から、生徒も一緒になって考えるべき。

（保護者）もちろん生徒の声が一番大事だが、保護者も取り込んでいくと学校に届きやすいと聞いたことがある。

（教職員）先生・生徒・保護者の3者で協議することは本当に必要。更に地域も交え、客観的に学校を見てもらうことができ、より良くなると聞く。

（保護者）地域と一緒に子供たちを育てることに大賛成。将来も協力する。

主な感想

（生徒）色々な人の意見を聞くいい時間になったと思う。言い残したことはなく、これで少しでも解決すればと思う。

（保護者）校則は人権に配慮した文言の整理が必要。先生や保護者や地域の方々が、あなたたちを応援する立場にいるので、生徒の皆さんもそこを信じて学校生活を送ってほしい。

（保護者）学校には人権意識を大事にしてほしい。生徒・保護者は、学校や先生には逆らえないと無関心にならず、生徒が主体となり保護者等も巻き込んで学校を良くしてほしい。

西山教育委員グループ 意見概要

★グループ構成★

生徒3名（高校生1名、中学生2名）、保護者3名、教職員1名

1. 校則や生徒指導の問題点について

() は発言者

名札を縫い付けなければならないこと

(保護者) 小学生の時は、防犯上名札の着用は学校内だけだったが、中学校では縫い付けなければならない。

名前ではなく番号で呼ばれること

(保護者) 生徒は名札を付けているのに、先生が生徒を「はい、何番」と出席番号で呼ぶ学校があると聞く。小学校では人の名前を大切にしている教育が行われていた。

髪型が決められていること

(生徒) 前髪は眉毛まで、女子は髪が肩にかかったら結ぶ、おだんごはダメ、ゴムは黒のみ

靴と靴下の色が白と決められていること

(生徒) 白は汚れやすいので変更してほしい。

下着の色が決められていること (保護者)

上着の着用禁止 (保護者)

アルバイトが原則禁止であること

(生徒) 高校生のうちに働く経験をし、接客等でコミュニケーションを学ぶことは大事と思う。

指導時、大声で怒られること

(生徒) その階全体に聞こえる程の大声で怒り、他の生徒もストレスを感じる。

校則について説明がなく、対話等の機会がないこと

(保護者) 小学校から中学校へ入学した途端、決まり事がたくさん増える。そのことについて学校からの説明はなく、生徒たちは疑問を発する機会もなく、ただ戸惑うという状況になっていると思う。考えたり、発言をしたり、対話をするような機会がないということが問題だと思う。

その他

(保護者) 学校で大人（先生）と子どもが対等な関係にないと思われ、そのような環境で校則やルールを考えるのは難しい。

(保護者) コロナ感染対策（手洗いの徹底等）について校則で定めてほしい。

2. 校則や生徒指導の見直しは必要か

→ 必要（全員一致）

3. 校則や生徒指導の見直しの方法について

今ある校則を先生と生徒でディスカッションする

（保護者）自分が中学生時代に行った。最終的に先生が決めたが楽しい経験だった。

保護者、生徒、先生の3者間で話し合う

（生徒）保護者と生徒と先生と色々な方向からの意見が聞きたい。

（生徒）校則で定められたことについて、生徒と先生が納得できるように話し合いたい。また、その場で、校則で禁止されている事項の理由などを聞きたい。

（保護者）生徒を中心に据えて話し合い、みんなで決めたという経験が必要と思う。

（保護者）大人と子どもで話し合う際、大人の理論だけで決めてしまわないよう、対等な関係で話し合いが進められる、生徒の声を消さないような場づくりが必要。

（保護者）生徒指導においても協力したいと考える保護者はたくさんいると思うので、保護者も一緒に問題解決をしていこうという姿勢を学校にも持ってほしい。

主な感想

（保護者）教育委員の方、校区外の生徒さん、保護者の皆さんと意見交換する機会があって良かった。今後も様々な方々と関わる機会があるといいなと思った。

（生徒）今回、こういう場でちゃんと保護者の方や教育委員会の方に自分の意見をしっかり言えたのはうれしくて、すっきりした。

（生徒）これまでは友人と校則について何故駄目なのかと、先生等への反発を高めるだけだったが、保護者の方や先生方が思っていることについて自分の中でしっかり納得することができた。友達や全校生徒にも伝えて、これからもっと学校を良くしていくために話し合いたいと思う。

遠藤教育長グループ 意見概要

★グループ構成★

生徒3名（高校生1名、中学生2名）、保護者3名、教職員1名

1. 校則や生徒指導の問題点について

() は発言者

校則について把握していない保護者がとても多いこと

(保護者) 生徒と教員との間だけでの暗黙の了解になっているように思う。

学校独自のルールがあること

(保護者) 明記されていないルールがあり、個々の先生あるいは学校によってルールが違うことがある。明記のうえ、保護者にも示してほしい。

小学校に比べ各段に多くの校則があること

(保護者) 中学生の子どもが学校で色々細かいことを言われ、窮屈に感じている様子。校則は生徒会等で子どもたちが主体的に決めると思っていたが、簡単には変えられないと聞く。

校則を見直す機会が設けられていないこと

(生徒) 校則に不満があるが、学校で見直す機会はなく、また意見も言いにくい。

海外に比べ、自由なことが少ない

(生徒) 海外の校則を調べると髪の色や服装が自由で、個性が尊重されていると感じる。

校則を知る機会が少ない

(生徒) 1年生でもらう生徒手帳に校則が明記されているが、2年生以降には生徒手帳が渡されないので校則について知る機会が少ないと思う。

「高校生、中学生らしさ」という言葉が不明瞭であること

(生徒) 学校では人権を守ろう、差別偏見はなくそうと言われるが、髪型については中学生らしい髪型をしようとして書いてありおかしいと思う。

(教職員) 中学生、高校生らしい、また華美でない服装・髪型と言われるのは、特に高校生となると社会に出る直前であるため、社会で通用するような身だしなみや清潔感を考えてもらうためであると思う。

(生徒) 化粧が濃すぎるのは高校生らしくないと思うが、高校生らしい髪型が何かわからない。

(保護者) 身だしなみには、眉毛を整えたり自分に似合う髪型を考えたりする部分も含まれると思う。学生時代にそのような試行錯誤を経験しておいた方がいいのではないか。

理由がわからない校則やルールがあること

(保護者) 白靴下は汚れも目立つし、白でなければならない理由がわからない。

(生徒) 首を絞められるからという理由でマフラー着用が禁止されているが、どのような状況を想定しているのかわからない。

(保護者) 生徒は他の学年のエリアを通過してはならないというルールがあり、同じ階に他学年と図書室があるため、図書室に行くために違う階に一度降りて行かなければならない。

先生は学年に関係なく通過している。

服装関連の校則が細か過ぎること

(保護者) 他県から引っ越してきて小学校に標準服があることに驚いた。中学校の服装や髪型も細かく決められ画一的であることが問題であると思う。自由にすると派手になるとの心配もあると思うが、子どもを信頼してやらせてみると、ひどい結果にはならないと思う。

靴下などの消耗品が規定されていて経済的負担があること

(保護者) 靴や靴下、カバンが学校で指定されていることによって経済的な負担も大きい。

2. 校則や生徒指導の見直しは必要か

→ **必要 (全員一致)**

3. 校則や生徒指導の見直しの方法について

生徒が改善案を作成し保護者と先生で話し合う

(保護者) 生徒会等で生徒版の校則を作成し、それを基に保護者と先生が話し合っではどうか。

(生徒) 生徒から生徒会へ意見を伝えるのが難しいので、アンケート等をとるなど言いやすい仕組みをつくったらいいと思う。

(生徒) アンケート等で意見を伝える際、無記名にしたいと言いたいことが言えると思う。

(教職員) 生徒が納得してきちんと守ってほしいと思える決まりをつくっていくことが大事。特に生徒人数の規模が大きい場合には、生徒会で意見をまとめるのは良いと思う。アンケートへの記名については、大事な意見を検討していくには、記載者により深く意見を聞きたい場合もあるので、あっても良いと考える。

(保護者) 全体を変えなくても、手始めに部分的に変えていってはどうか。また、誰がどんな意見を言っても大丈夫というところから始めてはどうかと思う。

主な感想

(保護者) 他校の生徒さんの意見も聞いてよかった。他の学校の校則を知り、自分の学校の校則を考える参考になると良いと思った。また、そもそも校則が何のためにあるのか、親も子どもも先生も考える機会があったらいいと思った。

(生徒) 国を良くするために法律があるように、校則が生徒を育てる上で重要なものか考える必要があると思う。また、生徒に自分の意見を言ったら変わるという成功体験の場をつくっていくべきではないかと思う。

(教職員) これから生きていく中で、自分の意見をしっかり持って、コミュニケーションを取りながら何かを作り上げることは大事。校則やルール作りを通してそのような力を養えるように考えていきたい。

(生徒) 今後、多様性にも対応できる校則を考えられたら良いと思う。

小屋松教育委員グループ 意見概要

★グループ構成★

生徒3名（高校生1名、中学生2名）、保護者2名、教職員1名

1. 校則や生徒指導の問題点について

() は発言者

髪型や服装等が細かく決められていること

- (生徒) ツーブロック、フェードカットは禁止されているが、その理由がわからない。
- (保護者) ツーブロックについて、すっきりするのでいいと思うが、中学校に禁止の理由を聞くと、高校で禁止されているという回答。理由になっていない。
- (保護者) 靴下の長さが決められている。
- (保護者) 下着の色が白の無地と決められている。気候に応じて変更してよいとすべき。
- (保護者) 置き勉できるものが限られている。夏の暑い時期など特にカバンの持ち運びが負担。
- (生徒) 学校指定の校章マーク入りの靴下を履かなければならない。破れやすく、経済的な負担もある。
- (生徒) 小学校では上履きだったが、中学校ではスリッパになった。スリッパで体育館に入っ
てはいけない決まりがあり、体育館には必ず靴下のままで入らなければならない。

学校での決まりごとが明記されていないこと

- (生徒) 学校には生徒手帳がなく、中学1年生の時に校則に関するプリントの配布があったのみ。また、それには明記されていない、校則かどうかわからないルールがある。

生徒や保護者の実情が配慮されていないこと

- (保護者) 靴下が白と決まっているが、汚れが目立つため必ず下洗いをして洗濯をしなければならない。濃い色の靴下の着用を認めてほしい。
- (保護者) 学校に持っていく荷物が多く、置き勉が許可されないのであれば、キャリーバッグ等運びやすいカバンを認めてほしい。
- (保護者) 暑さ対策として日傘を認めてほしい。

その他

- (生徒) 入学時に自分の机についている傷の確認調査があった。2年生になって傷が増えていないかの調査と机に名前を付けるという時間があり、机に傷をつける生徒ではないのかと信頼されていないように感じたし、名前を付ける意味がわからなかった。

2. 校則や生徒指導の見直しは必要か

→ 必要（全員一致）

3. 校則や生徒指導の見直しの方法について

生徒会が先生も交えて校則について検討する場を設ける

（生徒）現在、先生だけで校則は考えられている。生徒会が先生を交えて校則について考える場があるといいと思う。また、生徒が意見を書いて意見箱に入れるという制度はあるが、意見箱の意見がどのように扱われているか不明。意見の結果がわかるようにしてほしい。

保護者からアンケートをとる

（保護者）子どもの意見はもちろんだが、年に1回か2回は保護者からもアンケート等で意見を募って見直す機会をつくってほしい。

（教職員）保護者からの意見は学級懇談会等の際に聞き、学校の中でその意見について考えることもできる。

主な感想

（生徒）生徒会に所属しており、今日の意見を今後の活動に活かしていきたい。

（保護者）新たな意見を聞くこともでき良かった。

（生徒）他の学校について今まで知る機会がなかったが、自分の学校と同じような校則があったり、自分の学校だけの校則があったりと発見があった。

（教職員）生徒・保護者の意見を聞くことができ勉強になった。

出川教育委員グループ 意見概要

★グループ構成★

生徒3名（中学生3名）、保護者2名、教職員1名

1. 校則や生徒指導の問題点について

() は発言者

髪型や服装等が細かく決められていること

(教職員) 現在、例えば、靴下は白で学校のイニシャル入りが指定され、長さも決められている。

その他細かく決められているが、これは30～40年前の学校が荒れていた時代に決められたもので、時代が変わり今後見直しが必要だと考える。ただし、校則に書いてないという理由で常識が守られないことが起きないか不安はある。

(生徒) マフラーやネックウォーマーは禁止。登校中に危険なことが起こらないようにという理由のようだが、中学生にもある程度の自覚はあり、登校時は許可してほしい。

(生徒) 女子の髪ゴムの色や髪の長さは胸ポケットまでと決まっている。それを知らない生徒もいる。細か過ぎると記憶していないこともあり、また胸ポケットより髪が長くても指導されることはない。大事なことだけを校則で決めると良いと思う。

(生徒) 靴下は白と決まっていて汚れが目立つ。黒等も認めてほしい。

(生徒) 髪型でツーブロックは禁止されている。

(生徒) 制服を半袖から長袖に移行する時期があり、必ず長袖にしなければならないが、暑がりである。

防寒着が決まっています経済的負担があること

(保護者) 子どもの学校でマフラーが禁止されているが、学校に理由を聞くと、学校指定のボックスジャンパーを着るよとのことだった。ボックスジャンパーは1万円くらいするが、マフラーは100円でも購入できる。

理由がわからず従っていること

(保護者) ツーブロックが何故いけないのか理由は分からないまま、子どもが髪を切る際、「校則に引っかけられない程度で」とお願いしている。生徒もどうしてだろうと思いつつ、しょうがなく従っていると思う。

その他

(保護者) ジェンダーの問題もあり、時代に合わせた見直しが必要。

2. 校則や生徒指導の見直しは必要か

→ 必要（全員一致）

3. 校則や生徒指導の見直しの方法について

学級内でアンケート実施後、生徒代表で検討し先生と協議する

(教職員) クラスでアンケートを実施し、クラスの代表者がその意見を持ち寄って校則について検討し、その結果をもって先生とも協議する。生徒総会で見直すのもいいと思う。

生徒が中心になって、必要性を検討する

(生徒) 生徒にアンケートをとり、生徒でこれはやらなければならないという常識をもって話し合い、先生も交え、皆が受け入れられるように細かいルールを設けないようにして見直すといいと思う。

(保護者) 子どもたちが納得できるように生徒を中心に決めたほうがいい。自分たちで決めたルールは守ると思う。問題が生じたら、その都度見直しを行う。大変だが、社会に出るための勉強になると思う。

企画執行委員会を設ける

(生徒) 校則を見直すための委員会を設け、そこでクラスの意見を出して決めていくのがいいと思う。

生徒と先生と意見交換の場を設ける

(保護者) 校則で規制されていることについて話し合う場をつくると、生徒が理由を聞くことによって必要性を納得し、また、生徒が見直しをしたいという意見を言う場にもなり、生徒の考える力や表現力にもつながると思う。

主な感想

(教職員) 化粧や髪染めなど自由にしてもいいと思う一方で、子どもを引き込むようなことをする大人から生徒を守らなければならない、心配も感じる。生徒と一緒に考えながら、ある程度のルールを守っていくことも大事だと考える。今日の意見をしっかり考えて今後につなげていきたい。

(生徒) 学校には見直しをする場が生徒会を中心にあるので、今日聞いた先生や保護者の方の意見も考えながら、自分たちで話し合いをして、校則等を考えていきたいと思う。

(生徒) 今後校則を少し変え、みんなが楽しんでいけるような学校にしていけたらいいと思う。

(保護者) 自分たちの学校生活をより良くするために、しっかり話し合っていて考えていくことが大事だと思う。これを機会に少しでもいい学校生活を送ってほしいと思う。

(保護者) これを機に、参加した生徒さんが中心となっている新しいことにチャレンジしてくれたらうれしい。

泉教育委員グループ 意見概要

★グループ構成★

生徒4名（中学生4名）、保護者2名

1. 校則や生徒指導の問題点について

() は発言者

校則や生徒指導等について議論する場がないこと

(保護者) 一方的に校則が決められ、生徒指導がなされ、意見を言う場もなく、生徒もしようがないと諦めているところが大きな課題だと思う。「なぜ」そのルールが大切なのかをきちんと皆が考え、学校も聴く姿勢を持ち、生徒が変えることもできるのではないかという声を出していけたら良いと思う。学校単位で今日のような場が持てたら良い。

髪型や服装等が細かく決められていること

(生徒) 靴下について、色は白で長さも決まっている。汚れやすく、色の指定はなくても良いと思う。

(生徒) 髪型でツーブロックは禁止されているがきちんとした理由がわからない。

(生徒) 髪ゴムの色や靴下の長さや色、靴の色や種類、そして髪型などあまり必要性の感じられない校則は変えていくべきだと考える。

(保護者) 学校指定のマーク入りの靴下を履かなければならない。破れやすく、経済的な負担もある。男子は長ズボンでマークも見えず必要性がわからない。

(保護者) 子どもの髪を保護者で切っているが、ツーブロックだと学校に指摘を受ける。

(保護者) 髪型でおだんごは駄目、前髪の長さは眉毛についてはいけない決まりがある。

(保護者) 日焼け止めについて、朝塗って行っていいが、持って行けず、放課後の部活動時には塗ることができない。

学校の校則やルールによって学校の常識が植えつけられていること

(生徒) 学校のルールには世の中にあまりないようなルールがあり、学校の常識を生徒に植えつけていると感じる。校則やルールは、生徒たちが学び、新しい常識を自分たちで決めていく中で、その手助けとして、学校と社会の橋渡しのようなものであるべきだと思う。

罰則が厳しいこと

(保護者) 子どもがアイプチをして学校に行ったことがあり、部活動停止、草むしりの罰則を受けた。

指導する側も定義がわかっていないこと

(生徒) ツーブロックについて指導があったが、先生がツーブロックの定義についてわかっておらず、理髪店で学校でも大丈夫な髪型にしてもらうよう指導を受けた。

置き勉が実現しないこと

(保護者) 子どもの怪我の危険性や成長に配慮して置き勉を認めてほしい。

(生徒) 同じ学校の生徒が置き勉について、成長に与える影響などのデータも集めて、校長先生に直談判したが認められなかった。

一人の生徒のことでクラス全員が連帯責任を取らされること

(生徒) クラスで誰か一人間違った行動などをしたらクラスの全員が怒られる。その結果、授業時間が潰れたり、先生の機嫌が悪くなって全部自習になったりすることがよくある。

(生徒) 先生は生徒を導く立場だと思うが、管理する立場だと思っているように見える。

2. 校則や生徒指導の見直しは必要か

→ 必要 (全員一致)

3. 校則や生徒指導の見直しの方

先生と生徒の仲をより良くするとともに、生徒同士で話し合う環境をつくる

(生徒) 先生と生徒では世代のギャップがあるように感じるため、まず先生と生徒の仲をより良くし、人間的な付き合いができる場をつくる必要があると思う。また、生徒同士でも校則や生徒指導について話し合う場を設けて、生徒たちで目的を決め、定期的に先生と生徒で意見交換していけたら良いと思う。

(保護者) 先生と生徒にフェアではない関係があると、一方的に理不尽なことを言われても、生徒からは言えないので、人間的に付き合えるということはとても大事だと思う。

子どもたちに心理的な安心を与える

(保護者) 自分の存在を認めてもらっているという教育の場でなければ、子どもたちも本音を出そうともせず、自主的、主体的になれないと思う。その上で幸せに暮らすことを目的に見直しを行っていかれたらいいと思う。

アンケート等を配布し意見を書いて提出する

(保護者) 学校で話すとなると、他の生徒の目も気になり、言いたいことを言えない可能性もあるため、アンケート等を配布してもらい、家で意見を書いて提出し、それに対する話し合いをすると、生徒の本当の気持ちが変わると思う。

(保護者) インターネットのアンケートシステム等を使い、先生たちの負担軽減も図るべき。

生徒会と生徒で校則について考える

(生徒) 今年から、生徒会と学校の生徒皆で校則について考える企画を行っている。

真に必要性が感じられる校則を作る

(生徒) 中学生らしい服装というのは大人の理想の生徒像「髪は黒色の短髪、スカートはすねくらいまでの長さ、眉は整えず、年中15cmの長さの白靴下と白い靴で、たくさんの教科書を担ぎながら帰宅する」であり、その理想像を押し付けられていると思う。校則を守っている生徒がトラブルを起こすこともあり、人格は校則を守るか否かに関係ないと思う。校則の緩い外国の学校では、幸福度が高く勉強しやすい環境で勉強ができていると聞く。明確に説明でき、本当に必要だと誰もが理解できる、大事だと思えるような校則にしたい。

生徒が意見を言い、受け入れられる環境をつくる

(生徒) 以前校則を変えたいと先生に言った際に、取り合ってもらえなかった経験がある。意見を自由に発言でき、それがどんな意見でも、周りに認められなくても、受け入れる大人が必要だと思う。伝わっているという実感があると、また意見しようと思える。

(生徒) こういう場でないと大人の人たちに声は届かないと思うので参加しているが、子どもの時代はすぐに終わってしまう。後悔が残らないように何か一つでもいいので、変えてほしいという思いがある。試行錯誤しながら一年一年進めていって、最終的に本当に必要だな、いいなと思える学校ができれば良いと思う。

先生の負担軽減を図る

(保護者) 最近ではHSP（ハイリー・センシティブ・パーソン）と言われる方が5人に1人ぐらいいると聞く。彼女や彼らたちが受け取る精神的な負担が大きく、そこにいき過ぎた指導があって、学校から足が遠のく子どもたちも多いと思う。しかし先生方にも余裕がない。対話を重ねるには時間と根気が必要なので、先生たちの労働時間の削減等も一緒にやらないと実現しないと思う。

問題解決のために全面禁止ではなく改善策を検討する

(生徒) 以前学校でSNS関連の問題が起きて、使用禁止の動きが学校で見られたが、そのような場合、一切禁止とするのではなく、改善策を検討すべきだと思う。

その他

(生徒) 今後、校則で何かを許可するとして、保護者等からの反対意見もあると思う。しかし、学校は許可をただけであって、推奨したわけではない。例えば髪を染めていいという校則が出たとしても、学校は許可をただけで、髪を染めなさいと言ったわけではない。そのように考えて判断することが大事だと思う。

主な感想

(生徒) 教育委員会の方と一緒に、色々と他の学校のことや保護者の方の話を聞くことができ、自分のことも改めて考えることができた。

(生徒) 有意義な意見交換ができたと思う。

(保護者) 生徒さんの発言にあったように、卒業の時期が来てしまわないうちに、スピード感をもって実践していく必要があると思う。小さなことからチャレンジし、検証していくと良いと思う。

(生徒) 校則など長く続いてきたものを大きく変えることには勇気がいるが、ちょっとずつでもいいから、スピード感を大事にして試行錯誤して行ってほしいと思う。こういう場で発言することができ、色々な人の視点で物事を考えることができ、本当に楽しかった。

(保護者) 教育委員会の方にも自分の話を聞いてもらうことができ嬉しかった。

(生徒) これからの学校生活が楽しみ。